

18日 月曜

Ⅱコリント

6:14 不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみとに、どんな交わりがあるでしょう。

6:15 キリストとベリアルとに、何の調和があるでしょう。信者と不信者とに、何のかかわりがあるでしょう。

6:16 神の宮と偶像とに、何の一致があるでしょう。私たちは生ける神の宮なのです。神はこう言われました。「わたしは彼らの間に住み、また歩む。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

6:17 それゆえ、彼らの中から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。汚れたものに触れないようにせよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れ、

6:18 わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる、と全能の主が言われる。」

7:1 愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられているのですから、いっさいの靈肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。

不信者との関係を無警戒・無制限に続けることに対して、パウロは戒めています。ノンクリスチャンと自由に付き合うのは、気まで楽なことに思えるかもしれません、それはむしろ「自分の心で自分を窮屈にしている」のだと、パウロは言います。

神を否定する人々は、真の生きる意味が違いますし、目的も、また価値観も違います。主のみこころとは反対のことをしようとするかもしれませんし、その結果苦難やトラブルを抱えるでしょう。

そのような人々と、境界線もなく混同した状態で付き合うことは、「つい合わぬくびき」だというの



聖書の記述

です。それは互いに首を絞める結果になるのです。

多くは結婚のこと適用するようですが、パウロはここでは結婚については言及していません。すべてのことに広く適用できる教えです。

私たちは、イエス様が十字架にかかるほどに愛しておられる世の人々を、心から愛します。また愛するべきです。しかし、神に反してまで彼らと一緒にすることをする必要はありません。一緒に不信者や滅びに向かって行って、「彼らのことを配慮している」などと言っても意味がないですし、彼らのためにもなりません。

「神を恐れかしこんで聖きを全う」していきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

